

昭和37年6月20日

第8群 新生児に関する問題

631—145

をしておれば教えて欲しい。

質問

(東大) 堀口 貞夫

成熟児と未熟児の単一呼吸量の差は肺活量の差によるか又は呼吸力の強弱によるものか、どうお考えでしょうか？

答弁

(市立川崎) 高島 弘

① 呼吸中枢の刺激を目的として、未熟児や仮死の場合に使用する事は長時間使用するとかえつて呼吸を抑制するので、短時間(3分)程度の吸入は良いと思います。が長時間の吸入は不可と考えます。

② 逐日的の変化を観察しており時間的には追及して居りません。

③ 未熟児の呼吸量の小さいのは肺活量の小なるため、為に頻回の呼吸を行つていていると考えます。

70. 新生児の食道並に胃のレ線の観察による溢乳吐乳に関する考察

(養育会東海病院) 佐久間 浩, 荒井 豊

従来の小児科学書等には新生児並びに早期乳児期の溢乳吐乳の原因として胃の形が円柱状で然も方向は長径が殆んど垂直でありなお噴門の括約筋の發育も不完全で閉鎖が弱いため体位の変換や哺乳後強く動かしたり腹部を強く押えたりすると吐乳するから哺乳後は静かに取扱わねばならないと記載されて居り又1942年 Henderson は新生児は号泣や哺乳によつて大量の空気を嚥下するが此が胃前庭に沿つて Airblock となつて新生児や未熟児の吐乳の最も主要な原因であると述べて居ります。

所が我々は昭和35年9月6日に生れた2600grの新生児が頑固な吐乳を繰返えし体重増加が見られないので10月10日にレ線検査してスライド1, 2の様に著明に食道の拡張の見られる所見を得まして此は Neuhauser, Bergberg が1947年に記載した食道無緊張症と云う病気であり処置としては毎食後1時間位起立した姿勢にして置く可きであると云う事を知りましたが我々は此の乳児のレ線写真と此の乳児からヒントを得て新生児及び乳児の溢乳吐乳の原因としては始めに述べた様な原因と違つて食道無緊張症と云う病的なものがなくとも食道の弛緩が原因となつて溢乳を起し溢乳による乳汁の咽頭附近の機械的刺激で吐乳が起るのではあるまいか若しそうとすれば哺乳後静かに臥位を取らせて置かずむしろ立位をとらせて置く可きではあるまいかと考え新生児の食道及び胃のレ線の観察を行いました。レ線撮影には哺乳瓶で造影剤を飲ませた者もあるが大部分は外径1mmのポリエチレンチューブを約10cm経鼻的に挿入して造影剤を注入しまし

た。造影剤は共成製薬のバルギンS 2号つまり100cc中硫酸バリウム125gr含有の物を水で約3倍に稀釈此の約20ccを1分から5分かけて注入、注入直後及び注入後約5分経過してから胃部を手で強く圧迫して果して胃内容が容易に食道に逆流するかどうかを観察したものを撮影しましたがその際の体位は45度懸垂位臥位をとらせて撮影しましたし勿論その際性器に対するX線の影響を考慮して下腹部以下は鉛ゴムで被いました。使用したX線は42KV0.05Sec 50~60mAで距離は70cmであります。スライド3~8は溢乳吐乳を訴える例であります。が食道の弛緩が見られますそうでない例はスライド9~16の様に食道の弛緩は見られません。そして何れも胃部を圧迫しても胃内容が食道に逆流する事はありませんし胃の長径が殆んど垂直であると言う事も認められませんでした。そして溢乳吐乳を訴える者に対して我々は授乳後体位を立位にするように指導して好結果を得ているのでありますが、以上の様に新生児の溢乳吐乳の原因として食道の弛緩が重要な一つの原因をなしているものと認め茲に報告した次第であります。

71. 新生児脳波と出産因子(第1報)

(日医大) 室岡 一, 田中 聰

新生児脳波は分娩時に児が受けた頭蓋内変化を推定するのに重要な参考となる。私共は種々な分娩様式で生れた児の脳波を検討して次のような成績を得た。

調査方法は当院で出産した児69例について生後日を逐つて脳波を検査した。脳波装置は三栄測定器製8誘導装置、または4誘導周波数分析器であり、誘導方式は左右の前頭、頭頂、後頭、側頭から行つた。検査中は児の状態を充分観察し、不定動作は逐一記録してArtifactの鑑別は極力遺憾なきを期したが、異常波と思われる波形が出現すればさらに双極誘導など誘導方式を種々変え消失するか否かを確めた。正常新生児30例の脳波は全例異常を認めない。脳波は不規則な低振巾速波に徐波が混入し、周波数振巾ヒストグラムは各日共4~7c/sに最大の山があり、逐日的に徐波数が増し振巾も大きくなる傾向にある。覚醒時と睡眠時の脳波を区別することはむずかしいが、睡眠時の方が徐波数も多く振巾も大きいようである。入眠時紡錘波様不定波を認めた例がある。

鉗子分娩、骨盤位、脐帯巻絡、遷延分娩などみな異常波を認めない。しかし仮死例に局在性持続性低振巾、規則性徐波などの異常波を認めた症例がある。この例は眼底所見として乳頭うつ血、網膜出血があり、痙攣を伴つたが、生後3日、5日、7日、1月、3月の脳波所見は